

南予の民話の分類～主人公に焦点を当てて～

1年4組 浦崎 郁奈 1年4組 岡原 里津
1年4組 久保妃香莉
指導者 教諭 井上 真介 教諭 水谷真砂美
教諭 中川 彩矢

1 課題設定の理由

昨年のRS Iの研究結果から、南予の民話には笑い話が多いと知り、さらに分析し詳細な分類ができるのか調べようと思った。昨年は内容のみの研究結果だった。だから、今年は主人公に焦点を当てて研究しようと考え、この課題を設定した。

2 仮説

「民」という漢字が使われていることから、「民話」とは民衆の間で語り継がれたものであり、身近な人物を主人公にして書かれた話が多いのではないかと考えた。

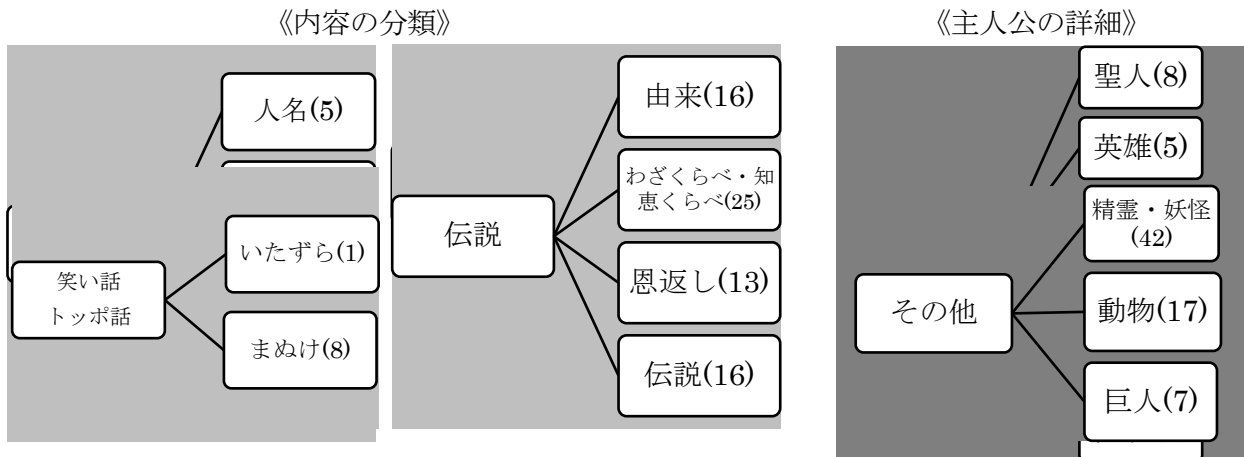
3 実験・研究の方法

- (1) 宇和島東高等学校図書館と宇和島市立図書館にて文献調査を行う。
- (2) 読んだ本の内容、登場人物を細かく分類する。

4 結果と考察

(1) 結果

調査した民話（124話）の内容と登場人物をより細かく分類すると、以下のような結果となった。



*その他は、最終的にはハッピーエンドになるが、わざくらべ・知恵比べ、恩返しの二つには含まれないもの。

(2) 考察

ア 身近な人々が主人公の話が多かったことから、民話は当時の人々の生活に密接に関係している話だと言える。

イ 現実的ではない話もあるため、主人公に自分の姿を投影し、思いや願望を民話としてフィク

ションの中に反映することで、物語に入り込みやすくしている。

ウ 民話は一般の人々が娯楽として語っていたものだから、位の高い身分の人々には他の娯楽があったため、長者や武士、英雄が主人公の話は少ないと考えられる。

エ その他の項目に注目すると精霊や妖怪を主人公とする話が村人が主人公の話よりも多い。さらに、動物を主人公とする話も多く、科学的・論理的に説明のできない物事については、人知を超えた存在を主人公にしたと考えられる。

5 まとめと今後の課題

(1) まとめ

人々にとって民話は、人々の願いや願望を表すことのできる手段のひとつだった。そのため主人公を自分たちに近い存在に設定したと考える。当時の人々は、フィクションとして話を作っただけかもしれないが、現代に生きる私たちから見ると、当時の生活や人々の心情、ものの見方や自然との関わり方などを読み取ることができる。そこが、私たちにはおもしろいと感じた。

(2) 今後の課題

精霊や妖怪についてもっと詳しく分類して、より見やすいものにしていきたい。また、わかりやすい分類になるように、もっと文献を細かく調べ直したい。

6 参考文献

- ・SSH生徒課題研究論文集 / 民話から見る南予 / 編者 本校生徒
- ・日本の民話 18 讃岐、伊豫編 / 編者 武田明 / 未来社
- ・日本伝説大系 第12巻 / 編集 福田晃 ・ 執筆者 松本孝三 / みずうみ書房
- ・宇和島の民話 子安地蔵と庚申堂 / 宇和島市立図書館
- ・宇和島の民話 観音堂の伝説 / 宇和島市立図書館
- ・県別ふるさとの民話19 愛媛県の民話 / 日本児童文学者協会 / 株式会社
- ・ふるさとの伝説10 地名、由来 / 編者 大島広志 / 株式会社
- ・あんな話・こんな話・とっぽ話 / 青年委員会 / 宇和島青年会議所
- ・えほん えひめのむかしばなし①②③ / 編集 えひめのむかしばなし研究会 / 南海放送
- ・愛媛のむかし話 / 著者 石橋勝治 / 愛媛県教育研究協議会国語委員会